

行政視察報告書

視察報告者 国宗 浩

【視察期間】 令和1年10月16日（水）～令和1年10月18日（金）

【日 時】 令和1年10月16日（水）

【視察先】 鳥取県倉吉市

【視察項目】 レトロ&クールツーリズムによる観光の取組について

【内 容】

倉吉市における観光施策は、重要伝統的建造物群保存地区として白壁土蔵群を中心に年間約 60 万人が訪れる「レトロ」なまちなみを観光資源にしてきました。近年クルーズ船等の寄港による外国人旅行者も増加しています。

そのような中、平成 26 年に世界的なフィギア製造メーカーの日本初倉吉工場を誘致し、製造メーカーとの連携によるまちづくりが可能となりました。

レトロな街並みとインターネット上の架空都市「倉野川市」のモデルが倉吉市ではないかとファンの間で話題になり、近年のアニメブームと相乗効果も手伝い、倉吉市への認知拡大・訪問増など新たな魅力づくりによる今までの訪問客層と併せて若者層の来訪者が獲得でき、賑わいを取り戻していました。

【所 感】

鳥取県内に著名な漫画家が複数いることやラボ的な拠点を探していた企業と行政の支援制度がマッチングし、誘致が進むなど幸運な面もありましたが、その環境を活かす時代に即した戦略により、今までの来訪者は 50~80 代が中心でしたが、20~30 代の若者世代もアニメの聖地イベント毎に来訪され、賑わいを見せていました。

市民の反応も「お店に活気が出た。地域と共存できた。」など好評であり、絶好のチャンスを生かした先例と考えます。

ある程度時間や費用に余裕のある世代に期待した観光施策一辺倒から、西日本の一都市に訪れたアニメ文化により、レトロな街並みに若者世代が来訪できる仕掛けにより、新しい年代層に魅力発信ができ、来訪につなげる取組みとして、評価できます。

今後長期滞在が新たな移住者になっていく施策など、今後が楽しいな事業と感じました。

特筆すべきことは、インターネットコンテンツにたけた若手職員が中心となって施策を展開しているところに、可能性を感じ、新しい発想の中で各種取組みの展開が必要であることを改めて痛感致しました。

【日 時】 令和1年10月17日（木）

【視 察 先】 岐阜県高山市

【視 察 項 目】 協働のまちづくりについて

【内 容】

市内20地区のまちづくり協議会への財政支援策として、高山市協働のまちづくり支援金を創設し、まちづくり協議会が主体的に取り組む、地域の維持、改善、振興に関する事業に対して支援金を交付しています。

対象事業は多岐にわたり、コミュニティの活性化・安心安全の確保・健康福祉の促進・環境の保全美化・文化の継承振興・教育青少年の健全育成・産業の振興など多岐にわたり、環境整備に関する要望は、町内会からまちづくり協議会に情報提供書を作成し、各支所に要望一覧を提出し、その後担当課で精査し、回答並びに事業の実施に繋がっています。

市としては、財政的な支援のみではなく、人的な関わり、小学校の空き教室など事務所の提供、要望への対応を行っており、地区に居住する職員がまちづくり活動に参加し、会計事務や連絡調整や助言など関りを持っています。

【所 感】

高山市は、「みんなでつくる持続可能なまち」を標榜し、市民と一体となったまちづくりを進めています。

基本的に、20地区の意向を反映し予算措置をしているようですが、本来行政が担うべき、市道及び付帯する水路の維持・修繕に係る事業の一部業務をまちづくり協議会に依存しているのではと感じました。

しかし地区の活動拠点に小学校などの空き教室を提供するなど、活動しやすい支援や専門的な知識を要することを市職員が、市長任命のもと地区担当として参画するなど一体となってまちづくりを推進する姿勢に共感しました。

他地区のモデル的な事業に対して、10/10の補助率で支援し、新しい発想を大切に工夫や人件費の追加支援や講師派遣の流れなど、今後につながる取組みを視察しました。

今後に向けての活性化の動きがある高山市の協働のまちづくりを研修し、過疎化や今後の少子高齢化や税収減少による予算不足などに備える新たなまちづくりとして、参考にさせていただきます。